

(別添様式3)

平成29年度 探究的な授業づくりのための教育課程研究実践事業実施報告書

学校名	安芸市立清水ヶ丘中学校
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www.kochinet.ed.jp/seisuigaoka-j/
研究のキーワード	
1 授業等の授業改善 (1)探究的な授業の質を高める。 (2)清水風授業スタンダード (3)カリキュラム・マネジメント	
2 総合的な学習の時間の充実 (1)各学年の学習活動をうまくつなげて、3年間で「9能力」が身に付くようにする。 (2)各教科との関連付け	
研究成果のポイント	
○清水風授業スタンダードの改善と実践による授業改善 ○総合的な学習の時間の全体計画・年間指導計画・単元計画の改善と実践 ○総合的な学習の時間の学習活動を中心とした各教科との関連表の作成 ○学力向上の検証（全国学力・学習状況踏査、高知県学力定着状況調査、安芸市版学力調査）	

1 1年間の主な取組

○保護者への周知（清水風授業スタンダードの共有 4/22 PTA総会）
○生徒への周知会（清水風授業スタンダードの共有 5/29）
○全校集会（話し合い活動イメージ動画視聴 あたたかい聴き方・やさしい話し方の確認）
○研究授業による授業改善→公開授業研究、研究発表会、教科研究（参加者延べ人数 267名）
○校内研修（主なもの）
4/26 清水風授業スタンダードの確認 研究発表会の進め方
5/10 各研究部会活動計画の確認 研究の手引きの効果的な活用方法
6/21 全国学力・学習状況調査の校内分析結果の共有・手立ての確認
8/ 1 オンデマンド研修 カリキュラムマネジメント 特別の教科「道徳」
8/ 3 小中連携 小・中学校で付きたい力の系統表作成
8/28 ICTの効果的な活用方法
10/25 研究発表会から学んだことを日常の授業で生かしていくために
2/21 特別の教科道徳について 教科会振り返り（成果と課題）の共有

○県外視察研修

6/17 秋田県由利本庄市立岩城中学校 2名参加

6/17～18 日本生活科・総合的学習教育学会（東京大会） 1名参加

8/30 秋田県横手市立横手北中学校 4名参加

○指定校研究発表会（嶺北中、朝ヶ丘中、中村西中）等への参加（参加者延べ人数 19名）

○家庭学習充実のための手立て

○総合的な学習の時間の全体計画、年間指導計画、単元計画の改善

○検証のための各種アンケート調査の実施・分析共有

2 具体的な研究活動（研究内容・方法、研究を進める上での工夫点等）

(1) 保護者への周知（清水風授業スタンダードの共有 4/22 PTA総会）

PTA総会で、校長から「今、求められる力、清水風授業スタンダード」について保護者に説明した。

(2) 生徒への周知会（清水風授業スタンダードの共有 5/29）

研究主任から生徒が大人になってから求められる力や清水風授業スタンダードについて説明し、生徒と教師が目指す授業について確認した。

(3) 全校集会（話し合い活動イメージ動画視聴 あたたかい聴き方・やさしい話し方の確認）

研究委員会で作成したトリオ学習の動画を生徒に視聴させ、あたたかい聴き方・やさしい話し方について資料を使って生徒に確認した。

(4) 研究授業による授業改善→公開授業研究、研究発表会、教科研究（参加者延べ人数 267名）

公開授業研究会を6月（国語）、研究発表会での公開授業を10月、教科授業研究会を6月から12月の間に12回実施した。秋田大学阿部昇教授、東部教育事務所、教育センターの指導主事を招き、指導・助言を受けた。

全教員が1回以上は研究授業を行い、指導案の事前検討会も含めて指導主事から指導を受けた。指導案の作成にあたっては、清水風授業スタンダードに基づいて、この授業で生徒に身に付けさせたい力、生徒の具体的な姿を教師が明確にもっておくこと、本時の展開の学習活動においては、学習のめあての設定、解決活動（自力解決、集団解決）、まとめ、振り返りの学習活動を設定した。また、本時の目標の達成に効果的なICTの活用を位置付けた。

授業研究事後協議では、ピンクの付箋（参考になったこと）、黄色の付箋（課題）を使い、ワークショップ形式で行い授業改善につなげるために、みんなで共通して取り組む「明日からやってみよう」を設定し、最後に指導主事から指導・助言を受けた。

また、6月の国語の公開授業研究会の研究授業では、秋田大学阿部昇教授から助言を受け、研究協議の質を高めるために、グループ協議を2回設定し、1回目のグループ協議で共通して出された課題・改善点の中でも特に重要だと思われるものについて再度グループで代案を検討した。

(5) 校内研修（主なもの）

①4/26 清水風授業スタンダードの確認・研究発表会の進め方

昨年度から清水風授業スタンダードをリニューアルしたので、教員全員がベクトルを合わせて授業改善していくために、課題設定、解決活動（自力解決、集団解決）、まとめ、振り返りの各活動について、授業の画像を活用しながら清水風授業スタンダードの共有を図った。

また、公開授業研究事後協議の進め方についても共有した。

②5/10 各研究部会活動計画の確認

各研究部会のキャップから、本年度の活動計画について説明した。自分が所属する部会の活動と自分が所属していない部会が何をしているのか共有することができた。

③6/21 全国学力・学習状況調査の校内分析結果の共有及び手立ての確認

国語科と数学科の教員から成果と課題、それぞれの要因について報告し、その後数学、国語以外の教科でも課題解決の手立てを考え授業改善につなげた。

④8/ 1 オンデマンド研修

「カリキュラムマネジメント」の動画を視聴し、カリキュラムマネジメントの定義や取り組む上での課題を確認した。その研修を生かして後日、総合的な学習の時間を軸としたカリキュラム表の作成につなげた。

「特別の教科 道徳」の動画を視聴し、「考え、議論する」道徳への質的転換、道徳の目標、指導内容について共有した。道徳部会では「考え、議論する」道徳を実現するために、あたたかい聴き方、やさしい話し方を2学期から全校で取り組むことにつなげた。

⑤8/ 3 小中連携 小・中学校で付きたい力の系統表作成

主体的・対話的で深い学びの授業を実現するには、小中9年間での付きたい力の明確化が大切だととらえ、清水ヶ丘中学校区でめざす児童・生徒像を小中の教員で話し合った。この話し合いの結果をもとに、清水ヶ丘中学校区で目指す児童・生徒像を今後作成する流れとなっている。

⑥8/28 ICTの効果的な活用方法

校長からスライドを使って、「探究的な授業づくりとICTの効果的な活用」について、1学期のICT機器の活用の実態を捉え、ICTを活用する目的と活用する場面や実際の具体例を共有し、2学期の授業改善に生かした。

⑦10/25 研究発表会から学んだことを日常の授業で生かしていくために

研究授業の指導案、事後協議の改善策のWBの写真、阿部先生の資料、授業力チェックシートをもとに授業改善策を個人思考、グループ協議、全体会【グループ発表→全体】を行い、明日からやってみようでは、学習規律の徹底（話し方の徹底・聞く姿勢ができるまで教師は待つ）、教材研究を大切にすることを確認し、東部教育事務所 小松指導主事の助言を受け、これからの授業改善に生かした。

⑧2/21 特別の教科道徳について・教科会振り返り（成果と課題）の共有

道徳推進教師から道徳の教科化に向けて、指導や評価等の在り方、道徳科の全体計画、年間指導計画の整備について説明を行い、内容の確認をした。

また、各教科等の教科会での振り返りを全体で共有し、取組の成果や課題を明らかにした。

(6)総合的な学習の時間の全体計画・年間指導計画、9能力ふりかえり表の改善

現在の2年生が3年生になる30年度の総合的な学習の時間を視野に入れながら3年間でストーリー性のある学習内容を位置付けた。しかし、運用に当たっては、年度当初に立てた計画を学習展開や生徒の取組や願いを随時把握し、育てたい資質・能力と照らし合わせながら、必要に応じて見直していく場合も考えている。

年間指導計画も各教科等との関連が分かりやすくなるように改善し、教科で身に付けた知識や技能・考え方が総合的な学習の時間で活用されたり、生徒が教科の有用感を実感したり、逆に総

合的な学習の時間での経験が各教科の学習活動のきっかけになる場合があることを教員が意識できるようにした。

9能力のふりかえり表の改善については、アンケート結果より、「教科とのつながりや教科で学習したことを生かして、調査や分析をしている」という項目の肯定的な意見が低かったので、ふりかえり表に、総合的な学習の時間の学習活動で生かした教科の知識や技能の欄を設けることとした。このことにより、各教科で身に付けた資質・能力を活用することが、総合的な学習の時間における生徒の学習が一層深まりと広がりを見せることを目指した。

○県外視察研修

6/17 秋田県由利本庄市立岩城中学校 2名参加

6/17～18 日本生活科・総合的学習教育学会（東京大会） 1名参加

8/30 秋田県横手市立横手北中学校 4名参加

○指定校研究発表会（嶺北中、朝ヶ丘中、中村西中）等への参加（参加者延べ人数 19名）

○家庭学習充実のための手立て

○検証のための各種アンケート調査の実施・分析共有

3 研究の成果と課題

(1) 検証

指標	達成目標	検証結果
①授業力チェックシート (生徒用) 1～10	各項目 3.5 以上	7月 項目 1 2 8 9 10 3.5 以上 12月 全ての項目で 3.5 以上
②授業力チェックシート (教師用) 1～15 の項目	各項目 3.5 以上	7月 全ての項目で 3.5 以下 12月 全ての項目で 3.5 以下
③総合的な学習の時間で育 った学力についての調査 1～20 の項目	学習に関すること 平均 90%以上	7月 85.8% 12月 89.5%
	自分自身に関すること 平均 90%以上	7月 87.4% 12月 88.5%
	他者や社会に関すること 平均 80%以上	7月 82.8% 12月 86.1%
	学習活動に関すること 平均 80%以上	7月 76.6% 12月 79.9%
④家庭学習調査	家庭学習 1 時間以上 75%以上	5月 58% 12月 68%
⑤全国学力・学習状況調査 教科問題	すべての教科の A,B 問題で 全国平均以上	国語 A +5.6 国語 B +7.8 数学 A +3.4 数学 B -1.1
⑥全国学力・学習状況調査 生徒質問紙（以下ア～カ） ア 自分にはよいところがある	75%以上	63.3%
イ 友達の前で自分の考え や意見を発表することは得意だ	70%以上	33.3%
ウ 将来の目標や夢を持っている	75%以上	75.0%
エ「総合的な学習の時間」 では、自分で課題を立てて 情報を集め整理して、調べ たことを発表するなどの	80%以上	83.3%

学習活動に取り組んでいる		
オ 授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思う	90%以上	98.3%
カ 授業の最後に学習内容を振り返る活動を行っていたと思う	90%以上	78.3%
⑦高知県学力学習状況調査(1・2年生)	県平均+5以上 記述問題の無解答率 15%以下	1年生 国語+0.8 数学+4.2 社会+11.0 理科+0.8 英語+5.3 2年生 国語+0.9 数学-1.3 社会+5.3 理科+1.4 英語+1.1 ・1、2年生ともに全ての教科で無解答率 15%以上の問題があった。
⑧安芸市版学力定着状況調査	1年生全国平均+3以上 2・3年生全国平均以上	1年生 国語-1.8 数学-2.6 社会-6.6 理科-6.1 2年生 国語-3.3 数学-4.8 英語-7.8 社会-7.0 理科-12.8 3年生 国語+3.2 数学-4.4 英語-2.9 社会+0.3 理科-5.7

(2) 成果

①授業力チェックシート(生徒)

12月にはすべての項目で、3.5以上を達成できた。

②授業力チェックシート(教師)

目標は達成できなかった。項目別に見てみると、項目9「ICT機器の効果的な活用」が2回目は+0.4上がっている。これは、夏休みの校内研修「ICTの効果的な活用方法」や授業力チェックシート1回目の分析共有が効果的であったと考えられる。

③総合的な学習の時間で育った学力についての調査

他者や社会に関することは、目標を達成できた。他の3つの観点については目標値には届かなかったものの学習方法に関すること85.8%→89.5%、自分自身に関すること87.4%→88.5%、学習活動に関すること76.6%→79.9%と上昇し目標値とほぼ近い評価が得られた。また、20項目中15項目が上昇し、下がった項目についても最大-2.6%であった。これは、学習内容が探究的な展開になることや付けたい力をどの場面で付けるのか、教科と総合的な学習の時間との関連を図るために、全体計画、年間指導計画、9能力のふりかえり表を改善し、教員で共有し取り組んだ結果が要因であると考えられる。また、各教科で身に付けた資質・能力を十分に把握でき、総合的な学習の時間に活用することで、生徒の学習が深まりと広がりを見せることにつながったと考えている。

⑤全国・学力学習状況調査教科問題

国語A+5.6 国語B+7.8 数学A+3.4と全国平均を上回った。

特に数学A（前年度比+5.9）と改善幅が大きい。基本的な計算問題においては日々の学習の中で繰り返し使う機会を設定したことが定着した要因であると考えられる。国語B（前年度比+1.4）はやや改善された。これは、全ての教科で共通して、結論と理由を意識して自分の考えを表現させたり、自分の考えを書く時に使用する用語や条件を設定して書く活動が効果的であったと考えられる。

⑥全国・学力学習状況調査生徒質問紙

「エ 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」が目標を達成できた。これは、総合的な学習の時間の学習活動を探究的な流れを意識して組み取り組んだことが要因であると考えられる。また、「オ 授業では、生徒間で話し合う活動をよく行っていたと思う。」が目標を達成できた。これは、清水風授業スタンダードを作成し、全教員でベクトルを合わせ課題解決を行う際に話し合い活動を活用したことが要因であると考えられる。

⑦高知県学力学習状況調査

1年生 社会+11.0 英語+5.3 2年生 社会+5.3 と県平均+5.0を上回った。

主体的・対話的で深い学びのある授業やICT機器の活用を行う取組を進めてきたことが効果的であったと考えられる。また、授業改善と日々の授業に対する教員と生徒の真摯な取組により生徒と教員の信頼関係が育まれており、Q-Uの結果にも成果が見られる。

(3) 課題

②授業力チェックシート（教師）

目標は、達成できなかった。特に、項目13「机間指導しながら、個に応じた支援や声かけをしている」は、3.2→2.8と0.4下がっており、個々の生徒のつぶやきを生かしたり、机間指導や声かけを徹底し生徒理解に努めていく。また、項目14「授業の流れや児童生徒の思考の過程がわかる板書計画になっている」は、2.3→2.5と+0.2上がっているものの評価が最も低いので板書計画を立て授業に臨む。

③総合的な学習の時間で育った学力についての調査

項目20「家族と総合的な学習について話すことがある」の項目が51.8%→56.5（+4.7）と上昇したものの1番評価が低い。家族と総合的な学習の時間について話したくなるような総合的な学習の時間の授業改善を図っていくことや、情報収集の場面で家族に話しを聴く活動を設定したり、家族にコメントをもらうことなど、家族と話題にするきっかけとなる手立てを考えていく。

④家庭学習調査

家庭学習時間平日1時間以上が、5月58%、12月68%と目標は達成できなかった。しかし、5月と12月を比較すると10%向上している。これは、これまでの取組に加え2学期に外部講師を招き全校生徒を対象とした家庭学習の大切さに関する講演を実施したことや期間を設定して「家庭学習時間調べ」に取り組んだことなどが要因として考えられる。これまでの取組を継続するとともに、家庭学習について教科会で家庭学習の内容を改善する話し合いをもったり、各教科で横の連携を図ったり、家庭学習の意義や目的を確認したり、キャリア教育の視点で学習することと将来のつながりを捉える学びの機会（講演会等）を設定し改善していく。

⑤全国学力・学習状況調査教科問題

数学B-1.1と全国平均にはやや届かなかった。今後は、各教科の授業の中で正確に条件や用語を満たして書いているか丁寧に評価したり、ある事柄を説明する上で必要な用語、条件は何か生徒に視点を与え指導していくことでB問題に対応する力が付くと考えられる。

⑥全国学力・学習状況調査生徒質問紙

「ア 自分にはよいところがある」「イ 友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だ」「ウ 自分の将来の目標や夢をもっている」「カ 授業の最後に学習内容を振り返る活動を行っていたと思う」が目標達成できていなかった。12月に行った道徳意識調査のアとウと同じ項目については、69.8%、79.1%であった。自分の将来の目標や夢をもつことにつながる取組については、目標を達成することにつながったが、生徒が自分によりよいところがあると思えることにつながる取組については、その後も目標達成に届いていないので今後も取組を改善する必要があると考える。イとカに類似する質問事項である12月に行った授業力チェックシート(生徒)「3 相手や目的に応じて自分の考えと、その根拠を明確に整理し表現することができる。」94.7%、「6 学習のまとめや振り返りを自分の言葉で表現することができた」91.7%と肯定的評価を得ることができたので、授業改善が図られていると考える。

⑦高知県学力定着状況調査

1年生 国語+0.8 数学+4.2 理科+0.8

2年生 国語+0.9 数学-1.3 理科+1.4 英語+1.1

と県平均+5の目標値を達成することはできなかった。また、記述式の問題については、どの教科も無解答率15%以上の問題があり目標の15%以下を達成することができなかった。今後も家庭学習や基礎的・基本的な学習内容の定着を図る取組や既習事項を活用して課題解決する授業展開を工夫していく。

(4) 次年度も継続する取組

①教科会の定例化と内容の充実(以下のことについて協議・実践し改善を図る。)

- ・担当教科の「見方」「考え方」の確認
- ・学習課題の具体的内容や提示の仕方
- ・効果的なICTの活用
- ・思考の過程がわかる構造的な板書
- ・机間指導や個に応じた指導・支援
- ・評価問題の内容

②家庭学習の量と質の改善

- ・外部講師を招き全校生徒を対象とした家庭学習の大切さに関する講演を実施する。
- ・専門委員会で各学期に1回「家庭学習時間調べ」に取り組む。
- ・教科会で家庭学習の内容を改善する話し合いを持ったり、各教科でよこの連携を図り生徒に家庭学習をさせていく。
- ・予習を目的とする家庭学習の割合を増やす。
- ・学習することと将来のつながりをとらえたりするような学びの機会(講演会等)を設定する。